

令和6年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立四條畷南小学校

I 学校経営方針

子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化をしており、人生100年時代や超スマート社会(Society5.0)の実現に向けた人工知能(AI)やビッグデータの活用などに向けた、急速な社会システムの変革に対して、学校教育の果たしていく責任は日々増している。

これからの未来を生き抜く子どもたちに求められている力は、互いのもちあじ(多様性)を活かしながら様々な課題解決に向けてつながりを持って協働し、より良い社会を築いていこうと努力し続けることであると考えている。

そのような子どもたちを育てていくために、南小では、自分の将来に夢を持ち、しなやかにたくましく生きる力を育成していきたいと考える。四條畷市教育振興基本計画を基に、今年度の学校教育目標を以下のように設定した。

【学校教育目標】

「夢を持って自ら学び、たくましく生きる子ども」

～ つながり 安心安全 協働 家庭・地域との連携 ～

今年度は、以下の視点について重点的に全ての教育活動の中で意識し取り組んでいく。

①子どもどうしや子どもとおとなの「つながり」

○子どもたちが、自分の考えを持ち、豊かな言葉でまわりに伝え、まわりの人間とつながりをつくる力を全ての教育課程で意識しておこなう。

○自分のもちあじを理解し、困った時にまわりに助けを求める力の育成をめざす。

○仲間の意見を最後まで聞き、自分の考えを高める子どもたちになるよう取り組む。

○学級・学校・地域をよりよくするためにつながりを深め行動できる子どもの育成をめざす。

②「安心安全」な学校・学級の環境づくり

○子どもが安心できる居場所づくりや自分を受け入れてくれる存在になるよう取り組む。

○全ての子ども(被差別部落にルーツのある子ども、外国にルーツのある子ども、障がいのある子ども、性的マイノリティの立場の子どもたちを含む)たちが自分のことを好きになれる人権教育の充実を図る。

○子どもが安心してチャレンジできる、励ましや享受の雰囲気溢れる学校づくりに全ての教職員で取り組む。

○自分や友だちの命や体を大事にできる保健教育や防災教育の充実を図る。

③「協働」的な学びの場づくりを通した学力向上

○主体的対話的な深い学び(児童自らが問いを立て、協働した学びで自己の考えを深める)を意識した授業研究に全教職員で取り組む。

○市のSAMRモデルに基づき、タブレットPCを使用した授業づくりを、年間を通しておこない児童のICT活用スキルを向上させる。

○様々なおとなと出会い、自分がめざしたい将来の夢や展望につながるキャリア教育の充実をはかる。

④「家庭・地域・学校の連携」の充実と深化

○学校の教育活動を様々な形で保護者に伝え理解を求めていく。

○南小教育ボランティアの充実(エプロン先生を含む)と、教育活動への地域の教育力の参加を進める。

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	確かな学びのある学校 家庭地域と連携して子どもを育む学校
★めざす子ども像	夢を持って仲間と協働して学ぶ子ども 自分も仲間も大切にできる子ども やってみようと挑戦することのできる子ども
★めざす教師像	子どもの成長のために力を合わせられる教師 子どもを理解し寄りそえる教師

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

本校児童は明るく素直で、友だちにも親切にやさしく接することができる児童が多い。知的好奇心も旺盛であり、楽しそうなことや新しい事に対して意欲的に取り組むことができる。子どもたちの根底にある自己肯定感・自己有用感の高さが上記の内容を下支えしていると感じている。しかし一方で、自分の考えや気持ちを丁寧に相手に伝える力や、自分の未来をイメージしながら夢に向かって努力する力、やってみようと挑戦することができる力の育成が課題である。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校児童の家庭環境について、保護者は我が子に対する愛情や関心を持って子育てをおこなっている家庭が多い。家庭での教育環境については、子育てについての考え方が多様であることや、保護者の多忙さなどから校区内でも一様ではない(習い事に通う児童の数、家庭学習に保護者が関わる時間など)。

②地域

伝統的な地域のつながりを保ち、地域のおとなたちで子どもたちを見守り育てようとの意識をもってられる地域の方は多い。学校安全協議会や民生委員、地域コーディネーターをはじめとして、子どもの安全確保やすこやかな育成のために熱心に力を貸してくださる方も多い。

③組織(教職員、PTA、保護者)

教職員は学校全体の課題や個々の児童の課題を共有しようとする意識を持っており、新しい取り組みへの共通理解も早い。児童への関わりを丁寧におこない、児童保護者との信頼関係を構築していく力を持っている。また教職員どうしのサポートや協力も相手意識を持ち行動している教職員が多い。

保護者の学校への期待や関心は高く、学級・学校の取り組みへの理解も得られやすい。保護者と学校がどのように子どもを中心にすえて協働していけるのか、取り組み方について検討を重ねていく必要がある。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
学力向上に学校組織をあげて取組み、児童に主体的・対話的で深い学びを実現する。		下記「B 達成基準」参照	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
協働的な学びを通して児童の学力向上をめざす	全国学力・学習状況調査（国・算）の平均正答率1.0を達成する	国語1.03 算数0.99	目標は ほぼ達成 できている。要因として国語はJK加配を中心とした国語の授業改善に校内全体で取り組み、これまでの研究が成果として表れている。来年度も引き続き「話す・聞く」領域で「言葉でつながり高めあう」子どもの育成に取り組む。 算数は全国よりも若干低い数値となったが、小学校専科指導加配の系統的な指導をおこない全学年での学力向上に取り組むことができている。
自ら問いを持ち解決していく学習を通して、児童の主体的・対話的に学ぶ力の育成をめざす	児童アンケート「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」 肯定的回答90%以上	児童アンケート肯定的回答年間平均85.2%	目標より若干下まわっていた 。達成しなかった要因としては、国語科で学んだ主体的・対話的な学習形態が、他教科での実践に十分いかせていないことが考えられる。来年度は、各学年の総合的な学習の時間などの探求的な活動をとおして、児童の主体的対話的な学びの場の設定を増やしていく。
学びに向かう力の向上をめざす	児童アンケート「学習したについて分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」 最肯定60%以上	児童アンケート最肯定回答年間平均31.1%	目標を下まわってしまった 。達成しなかった要因として、学習の「ふりかえり」での認知力を向上させる取組みが弱かったことが考えられる。 学習で何がわかったのかという「ふりかえり」については自主学習など家庭学習においてもふりかえる習慣をつけていっているが、授業の中でもあらためて何を学んだのかについてふりかえる学習習慣の定着にむけて努力を続けていく。

目標設定区分2『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)	
主体的、対話的で深い学びを実現できるよう教職員の意識を高め、組織的な取組みをおこなう		下記「B 達成基準」参照	

B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
児童が課題解決に受けて話し合い、協働的な学びの場をつくり、自分の考えを「書いて」表現できる力をつける	教職員アンケート「児童が課題解決に向けて話し合うなど、協働的な学びの設定に取り組んでいますか」 最肯定50%	教職員アンケート最肯定回答 3学期 50%	目標を達成 している。要因としてJK加配を中心とする校内研究体制の中、継続した校内研修と、授業研究をおこない協働的な学びの場の設定について教職員の合意形成が高まってきたことがある。(最肯定値1学期20%→2学期43.8%→3学期50%)来年度以降も「言葉でつながり高めあう」子どもの育成において教職員の研究ベクトルを整え具体的な方策について研究を進めていく。
ICT活用の推進、校務支援システムを利用した働き方改革の推進	児童アンケート「ICTを使用することで、進んで学習するようになりましたか」 肯定的回答90%	児童アンケート肯定的回答 年間 72.9%	目標より低い回答値 となってしまった。要因として校内の授業でのICTの活用は昨年度より進んでいるものの、スクールタクト等での活用を含めた児童へのICTを活用した学習活動が意欲関心をもたせるものになっていないことが考えられる。来年度も市域の活用事例を参考にして児童の興味関心を高める活用についてICT担当を中心に研究を進める。

目標設定区分3『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
児童の自己肯定感・自己有用感を向上させ、自分を高めようとする意欲を育てるために、教職員の資質向上を図る。		下記「B 達成基準」参照	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
安心・安全な学級集団づくり	右記具体的方策に対応する児童アンケート項目：否定的回答が10%以下	○クラスの中に自分の気持ちを分かってくれる人がいる 否定的回答14% ○クラスの人から認められることがある 否定的回答19% ○みんなのためになることを見つけて行動	目標を下回ってしまった。要因として、生活指導部を中心とした、校内での発達支持的生徒指導の取組みは進み肯定的な回答をする児童が多かったものの、各学年にいる自己有用感を感じにくい児童への個別の支援が完全に行き届かなかったことが考えられる。今後も自信をもって人間関係を築き、積極的に挑戦する意欲を育てる。友だちや下級生に対し、互いの違いを理解し、助け合う心情を育てるため、通級担当者をはじめ生活指導部を中心とした校内スクリーニングによる児童理解の促進や各学年での自己有用感を向上する特別活動を充実させていく。

(様式2)

令和7年3月21日(金)までに提出

		している。 否定的回答 19.5%	
不登校への対応	不登校ゼロ	年間欠席日 数30日以上 0人	目標を達成している。昨年度より継続していた不登校 気味の児童たちについて校内ケース会議を定期的に 開催しSC、SSWや外部機関との連携をおこない支援 の方針を担任を中心に確実に実行できたことが成果 に結びついていると考える。来年度もこの校内支援体 制を継続しておこない、すべての児童に対しての発達 支持的生徒指導を推進していく。
教職員の授業力向上	児童アンケ ート「国語・理科 の授業はわか りやすい」最 肯定70%以 上	児童アンケ ート最肯定 75%	目標を達成している。肯定値においても9割以上の児 童がわかりやすいと回答しており、確実に児童の学力 向上につながっていくものと考えている。 また算数の最肯定値も73%となっており年間を通し た継続した授業づくりの取組みが進んでいる。来年度 も継続してこの取組みをおこなっていく。

目標設定区分4『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準（各種調査、アンケート等）	
地域コミュニティづくりの推進、家庭教育支援の充実		下記「B 達成基準」参照	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	結果	評価
家庭学習の習慣化	保護者アンケート「子どもは宿題や自主学習にがんばって取り組んでいる」否定的回答10%以下	保護者アンケート 否定的回答 27%	目標を下回っている。要因として年間を通した取組みが担任任せになってしまい学校全体で研究を進めることができていないことが考えられる。JK 担当と相談して年度途中より自主学習通信を発行し、児童の努力を可視化する取組みをおこなったが意識を向上させるまでには至っていない。来年度もこの課題点をいかに解決していくか校内で研究をすすめる。
開かれた学校づくり	保護者アンケート「学校の教育活動は保護者によく知らされている」肯定的回答90%以上	保護者アンケート 肯定的回答 93%	目標を達成している。要因として定期的な学校だよりの発行や、各学年の通信などメール配信も併用しながらわかりやすい保護者への通知をこころがけたことがあげられる。来年度以降も引き続き保護者への丁寧な通知をこころがけていく。

5 学校関係者による評価(学校運営協議会等)

西中校区学校運営協議会の定例会で、学校の取組みと成果について報告し了承を得た。南小の取組みである「エプロン先生」や、地域人材のキャリア教育での活用も好意的に受け止めていただいている。

校区の民生委員さんとの交流会も年3回実施して、各地区での児童の様子、学校での児童の様子を丁寧に交流し、教職員の努力について高い評価をいただいている。実際に学校の行事や学習に参加していただいていることで児童の様子をよく理解していただいていることや、実際の声として南小の児童がよくあいさつをするようになったという好意的な評価もいただいている。

6 総合評価と次年度に向けて

今年度の南小学校の成果としてあげられることは、みなみっこの学力がここ数年確実に向上し、6年の全国学力テストでは、ほぼ全国と同じレベルまで達成したことである。これは授業改革で授業改善加配を中心に授業づくりに全校で取り組むことができたことが要因としてあげられる。研究授業を年間3回おこない、低・中・高学年部会で授業案を練り上げた事、研究協議で授業内容を振り返り深めたことは全ての教員にとって深い学びの場になっていること、教職員が同じ研究のベクトルで日々の教育活動に取り組んでいたことが結果として表れている。

児童理解も例年と同様、教職員の高い意識を保ち児童の日々の様子の観察や事象への対応を担当まかせにすることなく校内体制で取り組むことができている。いじめの認知件数は高いものの年度末にいくに従い減少しており児童が安心して学校生活を過ごすことができている。

地域との連携も昨年度に引き続き良好である。1年生のサポートをおこなう「エプロン先生」は、今年度もスムーズ実施することができた。教員との関係も良好で来年度も充実した関わりをおこなっていただける予定である。また、民生委員さんとの交流で様々な教育活動へ関わっていただく教育ボランティアの流れもつくってこられた。来年度はさらに地域の教育力を教育活動に参画してもらい、子どもたちの健やかな成長にいかしてもらおう。

来年度も教育目標をさらに進めていけるよう「めざす子ども像」や「望ましい子どもの具体的な姿」を教員と共有しながら、保護者・地域に理解され協力してもらえる学校づくりをすすめていきたい。